

養豚一貫経営の収益動向とその要因

要約

調査対象経営の種雌豚平均飼養頭数は平成4年から12年までは100頭以下であったが、平成13年は111.0頭に拡大した。労働力員数は飼養規模の拡大にともない多くなった。収益は売上高で平成4年、9年、13年に豚枝肉市場価格の高騰で販売収入が増加した。肥育豚販売収入は売上高、経常利益に影響し所得増減の要因となっている。販売収入は生産および管理技術的な要因も関係するが、全体としては豚肉市場価格の影響が最も大きかった。生産費用の購入飼料費の価格変動は収益性に大きく影響した。生産技術（繁殖）に大きな変化はないが、肥育管理技術は多頭化による事故率が高くなる傾向にある。

平成13年は種雌豚飼養頭数、労働力員数で多くなり、種雌豚飼養規模の拡大にともない生産性（繁殖成績、肥育豚出荷頭数）が良くなる傾向がみられた。収益性では豚枝肉市場価格の高騰で売上高、利益、所得で好転した。生産費用では種付料が増加し、原因として豚AI技術の利用増加がみられた。種雌豚飼養規模別では経常所得で大きなちがいはなかったが、家族労働力1人当たりの年間経常所得は種雌豚飼養規模の大きい経営ほど多くなった。所得階層間には売上原価に差がなく、売上高格差がそのまま階層間格差となった。所得の上位階層は多頭出荷、高価格販売を特徴とするグループであった。繁殖成績は種雌豚飼養規模が大きくなるほど、所得上位階層になるほど成績が良くなる傾向がみられた。肥育成績の飼料要求率は肥育豚飼養規模が大きくなるほど向上し、所得上位階層ほど枝肉格落率、事故率で優れていた（低損耗）。子豚生産頭数規模別および肥育豚出荷頭数規模別にみると、生産・出荷頭数が多いほど所得が多かった。これらのことより子豚多生産（繁殖技術）、肥育豚多出荷（管理技術）、高価格販売（品質）が高収益につながった。

1. 平成4年から平成13年までの動向分析

1) 経営の概要

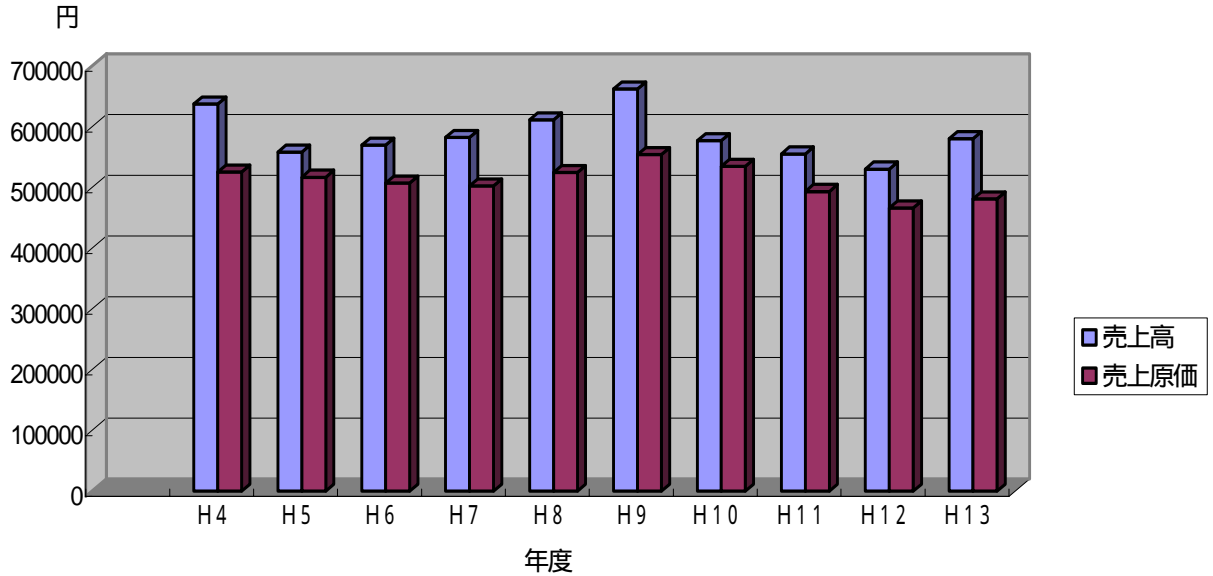
経営の概要

年度	平成4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
集計戸数	132	109	114	122	92	61	78	106	105	112
労働力										
労働力員数	2.4	2.5	2.7	2.4	2.2	2.4	2.4	2.1	2.1	2.8
うち家族員数	2.0	2.1	2.2	2.0	2.0	2.2	2.1	1.9	1.8	1.8
飼養頭数										
種雌豚	84.3	89.3	94.5	83.3	77.8	89.1	78.1	78.3	78.5	111.0
種雄豚	6.8	7.2	7.9	6.8	6.6	8.0	6.3	6.2	6.2	8.4
候補豚	7.0	8.7	9.1	7.3	9.3	9.8	7.1	7.0	6.6	13.2
子豚	245.3	281.9	254.7	232.3	219.7	299.5	184.8	194.4	198.7	262.1
肥育豚	664.3	660.4	771.0	678.5	587.9	678.8	663.7	655.5	633.4	859.4
出荷頭数										
子豚	13.9	44.1	49.3	17.2	17.6	14.8	20.3	8.9	6.8	15.3
肥育豚	1489	1581	1700	1533	1381	1704	1400	1449	1430	2002
候補豚	7	9	2	15	8	14	11	1	3	2

- (1) 集計戸数は平成9年まで減少傾向が見られたが、その後は増加し平成11年以降は100戸以上であった。
- (2) 労働力員数は平成11、12年の2.1人が最も少ないが、平成13年は2.8人でここ10年間では最も多くなった。家族労働力に大きな変化はなく、10年間の平均は2.0人であった。
- (3) 種雌豚の飼養頭数は平成12年までは70頭から90頭であったが、平成13年は1戸の平均飼養頭数が111.0頭ではじめて100頭以上になった。
- (4) 各年度の種雌豚1頭当たりの肥育豚飼養頭数は平成10年(8.5頭)が最も多く、繁殖成績(1腹当たり離乳頭数9.5頭)が良好な年度であった。
- (5) 各年度の種雌豚1頭当たりの肥育豚出荷頭数は平成9年(19.1頭)が最も多く、このことは種雌豚1頭当たりの収益性に大きく影響していた。

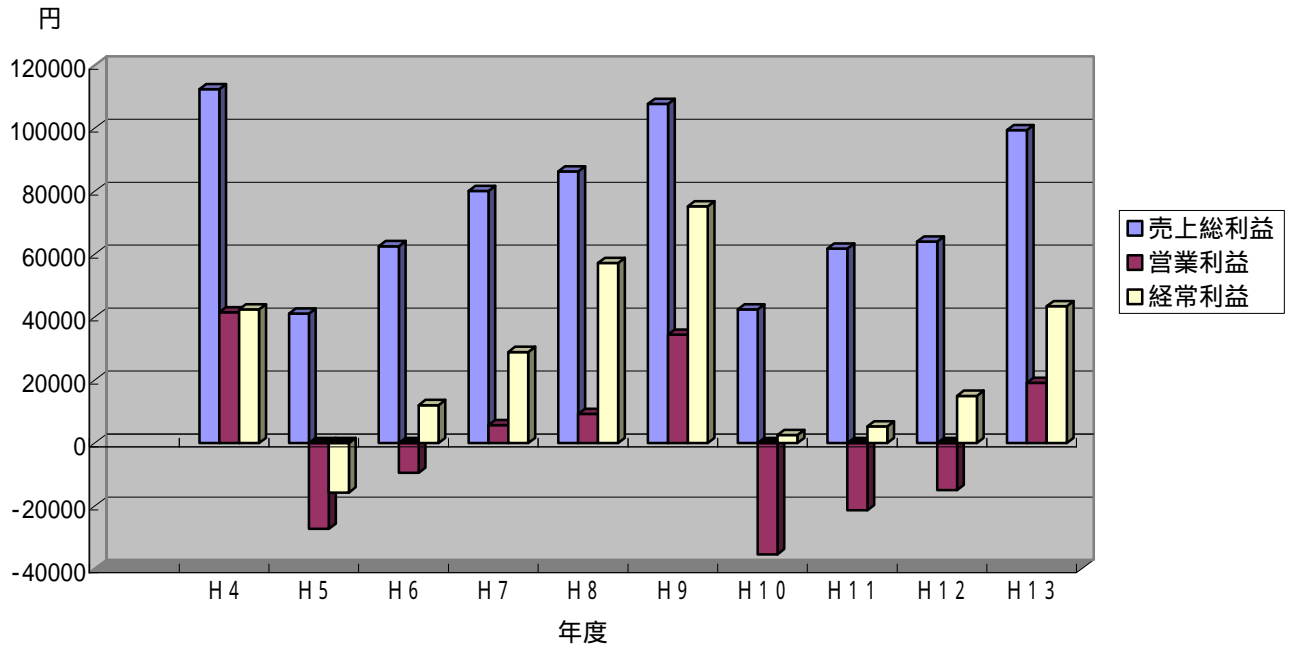
2) 収益性

売上高合計と売上原価の推移(種雌豚1頭当たり)



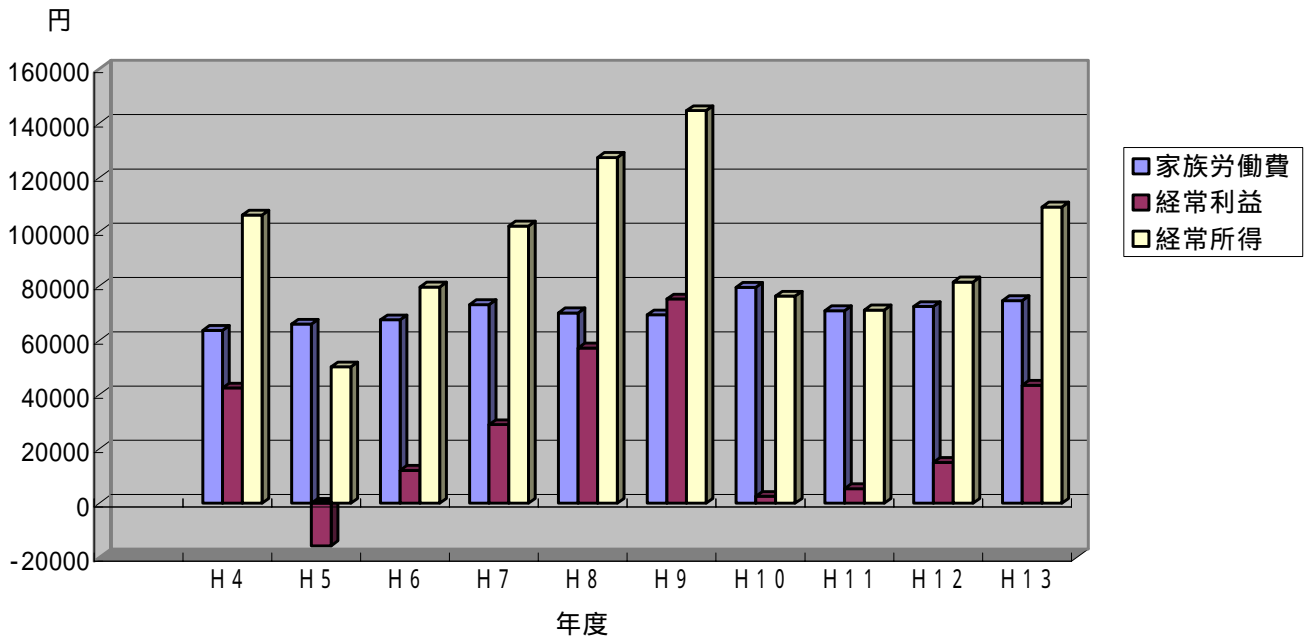
- (1) 売上高の95%以上を占める肥育豚販売収入は、豚枝肉市場価格に影響される。市場価格が高水準で推移した平成4年および平成9年は肥育豚販売収入が種雌豚1頭当たり60万円を超えた。平成9年から12年は減少傾向にあったが、13年はやや回復し58万円となった。
- (2) 売上原価は約47万円から約55万円の間に推移している。購入飼料費は売上原価の60%以上を占めるが、平成7年は飼料費の値下げもあり売上原価の59%にとどまった。売上原価が低くなった平成12年、13年も購入飼料費が売上原価の60%にとどまり、このことが売上原価に影響した。

売上総利益、営業利益および経常利益の推移(種雌豚1頭当たり)



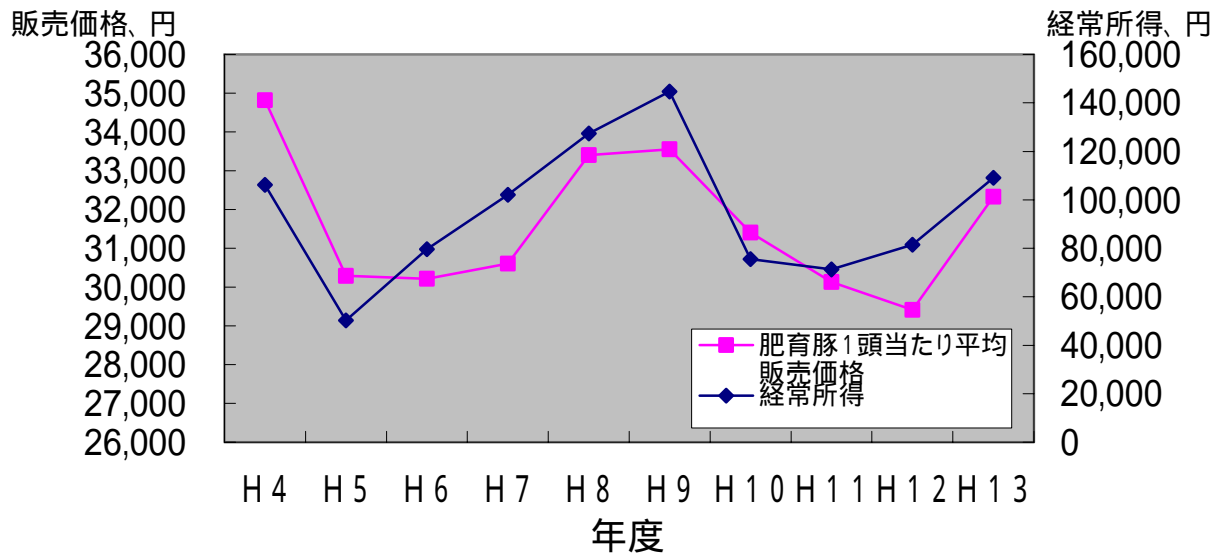
- (1) 売上総利益も市場価格に影響され、売上高と同様に平成 4 年、9 年、13 年が高くなった。
- (2) 営業利益は平成 5 年、6 年、10 年、11 年、12 年でマイナスとなり、平成 5 年では経常利益もマイナスとなり、家族労働費を加えた経常所得でようやくプラスに転じた。

家族労働費、経常利益および経常所得の推移(種雌豚1頭当たり)



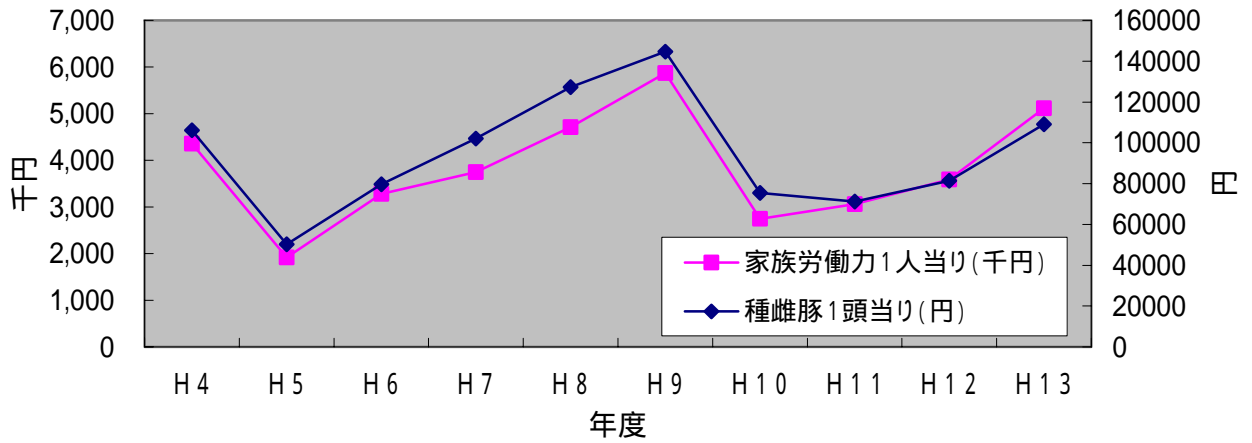
- (1) 家族労働費は平成 6 年まで 6 万円台で推移したが、7 年以降は 7 万円以上になった。
- (2) 肥育豚販売収入は経常利益に最も影響し、経常所得の増減の要因となっている。販売収入は生産技術的な要因も関係するが、全体としては豚枝肉市場価格の影響が最も大きい。
- (3) 経常利益、経常所得が高くなった平成 8 年、9 年は、肥育豚 1 頭当たり販売価格はほぼ同じであるが、平成 9 年は 8 年に対して、種雌豚 1 頭当たりの肥育豚出荷頭数が 1.3 頭多くなっており、このことが経常利益差 18,015 円、経常所得差 17,272 円になった。

肥育豚1頭当たりの販売価格と 經常所得(種雌豚1頭当たり)の推移



- (1) 肥育豚1頭当たり販売価格は、種雌豚1頭当たりの肥育豚出荷頭数とともに、肥育豚販売収入、經常所得に最も影響を与える。平成12年は11年に対して種雌豚1頭当たりの肥育豚出荷頭数は0.6頭少なく、販売価格も721円低い。しかし經常所得は逆に10,268円高くなっている。このことは生産費用の購入飼料価格が平成12年は11年に対して7.4% (22,676円) 減少したことが売上原価減少となり、經常所得の格差になった。購入飼料費は平成12年に最も低くなった。

家族労働力1人当りおよび種雌豚1頭当りの經常所得



(1) 近年の調査対象経営の種雌豚飼養頭数はやや増加の傾向にあるが、家族労働力員数に変化はみられないため、家族労働力1人当たりの年間經常所得と種雌豚1頭当たりの經常所得は同様の傾向となった。

3) 生産性

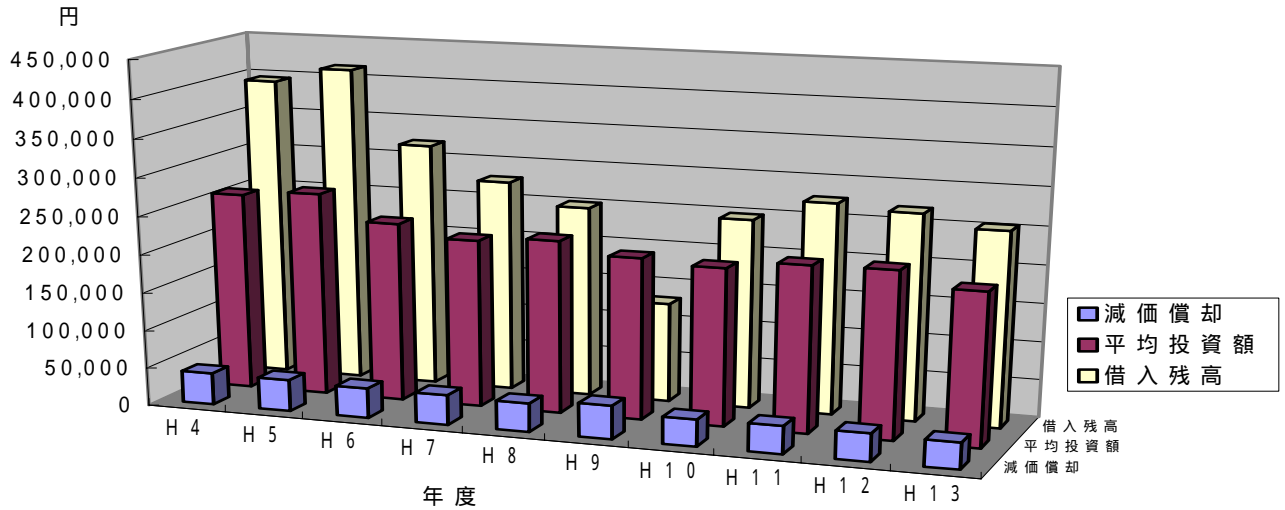
繁殖成績および肥育成績の推移

	平成4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度
種雌豚1頭当り年間平均分娩回数(回)	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.2	2.1	2.2
種雌豚1頭当り年間哺乳開始頭数(頭)	22.3	21.7	22.5	21.2	22.7	21.8	22.3	22.3	21.5	21.7
1腹当り分娩頭数(頭)	10.7	10.8	10.7	10.6	10.9	10.7	10.8	10.8	10.7	10.6
1腹当り離乳頭数(頭)	9	9	9.1	8.7	9.2	9.2	9.5	9	9.1	8.7
種雌豚1頭当り年間子豚離乳頭数(頭)	19.8	19.7	20.1	19.2	20.3	20.4	20	19.7	19.1	19.5
子豚育成率(哺乳開始～離乳)(%)	88.9	89.7	89.9	91.2	89.4	90.0	89.1	89.6	89.7	90.8
種雌豚1頭当り年間肥育豚販売頭数(頭)	17.8	17.8	18.5	18.3	17.8	19.3	17.9	18.3	17.7	17.6
販売肥育豚1頭1日当り増体量(g)	604	596	607	597	587	588	591	595	601	600
枝肉規格「上」以上適合率(%)	50.6	51	53.5	48.8	51	52.8	52.5	50	50.1	46.9
対常時頭数事故率(%)	12.2	11.8	11.6	13.8	12.9	14.8	13.8	15.4	15.7	17.2
飼料要求率	3.16	3.2	3.09	3.07	3.21	3.14	3.11	3.16	3.16	3.18
肥育豚1頭当り販売価格(円)	34,822	30,287	30,213	30,605	33,404	33,552	31,408	30,136	29,415	32,331

- (1) 年間の平均分娩回数と1腹当たりの分娩頭数はここ10年間大きな変化はなかった。
- (2) 哺乳開始頭数、離乳頭数は平成12年、13年にやや低下した。
- (3) 種雌豚1頭当たり年間肥育豚出荷頭数は平成9年をピークにやや下降気味であった。
- (4) 増体量、枝肉規格「上」以上適合率、飼料要求率はここ10年間大きな変化はみられなかった。
- (5) 事故率はやや増加傾向にあったが、平成13年(17.2%)がここ10年間では最も高くなり、管理技術への増頭、多頭の影響が考えられる。

4) 施設投資・資金借入状況

減価償却、平均投資額および借入残高の推移（種雌豚1頭当たり）



- (1) 減価償却と平均投資額には大きな変化は認められなかった。全体としては10年間は平均した償却終了と投資が繰り返されていた。
- (2) 借入残高は平成4年から9年は減少傾向にあり、平成9年は種雌豚1頭当たり約13万円で最も低かったが、平成10年から13年は種雌豚1頭当たり約24万円から28万円の借入残高となった。

2. 平成13年度の収益性分析

1) 経営の概要

種雌豚飼養頭数規模別の経営概要

種雌豚飼養頭数規模		全体	10-20頭	20-30頭	30-40頭	40-50頭	50-70頭	70-100頭	100頭-
平成13年度 集計戸数		112	1	9	12	17	18	27	28
%		100	0.9	8.0	10.7	15.2	16.1	24.1	25.0
労働力	労働力員数(人)	2.8	0.7	1.3	1.3	1.2	1.9	2.5	5.7
	うち家族員数(人)	1.8	0.7	1.3	1.3	1.2	1.8	2.1	2.4
飼養頭数	種豚								
	雌(頭)	111	18.0	27.9	34.8	45.0	59.2	84.5	272.5
	雄(頭)	8.4	2.0	2.7	2.8	4.4	5.1	7.6	18.2
	候補豚(頭)	13.2	5.0	1.6	2.3	4.3	5.7	7.3	37.8
飼養頭数	子豚(頭)	262.1	73.0	78.4	75.4	108.9	132.8	193.8	650.0
	肥育豚(頭)	859.4	116.0	192.1	268.0	326.6	483.4	672.2	2099.5
出荷頭数	子豚(頭)	15.3					16.0	31.7	20.4
	肥育豚(頭)	2002	398	452	595	738	1048	1571	4955
	候補豚(頭)	2				8		1	1

- (1) 集計戸数 112 の平均種雌豚飼養頭数は 111.0 頭、種雌豚飼養規模の割合は、100 頭以上が 25%、70~100 頭が 24.1% で 70 頭以上の規模が全体の約半分を占めた。
- (2) 平均労働力員数は 2.8 (うち家族員数 1.8)、雇用労働力は種雌豚飼養規模の 70~100 頭は 0.4 人、100 頭以上は 3.3 人であった。
- (3) 種雌豚 1 頭当たりの肥育豚飼養頭数および出荷頭数は、70~100 頭、100 頭以上で全体の平均値より高く、生産性(繁殖成績)の向上が認められた。

2) 収益性の比較

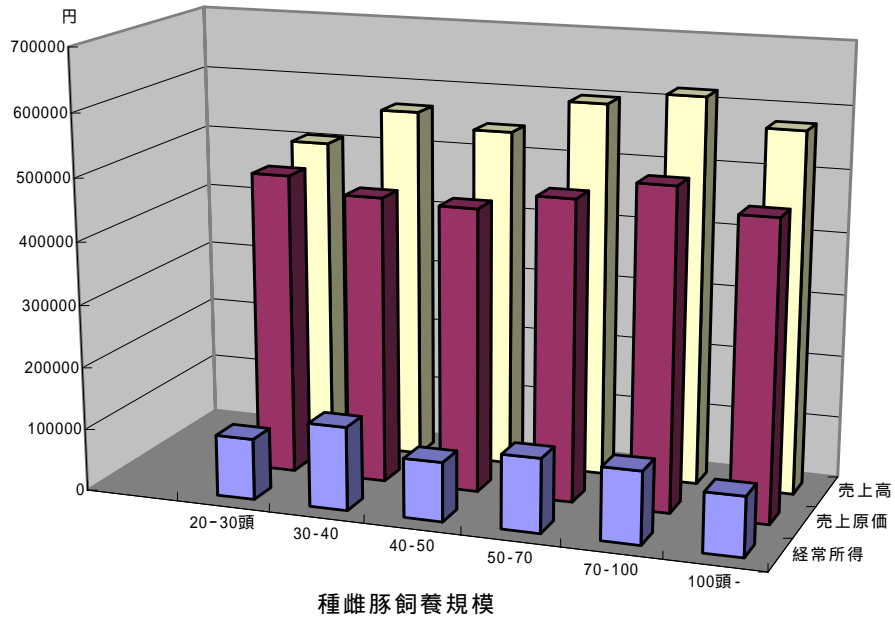
養豚一貫経営の収益性

		種雌豚年1頭当り		肥育豚年1頭当り		
集計年度		平成12年	平成13年	平成12年	平成13年	
集計戸数		105	112	105	112	
種雌豚・肥育豚飼養規模		78.5	111	633.4	859.4	
売上高	子豚販売収入	1,391	2,158	215	324	
	肥育豚販売収入	522,567	569,579	69,057	79,367	
	候補豚販売収入	771	2,207	111	669	
	その他	5,810	6,491	717	854	
計		530,538	580,435	70,100	81,215	
売上原価	期首飼養豚評価額	144,958	145,860	19,260	20,047	
	当期生産費用	種付料	494	801	63	115
		もと畜費	16,963	17,508	2,313	2,649
		購入飼料費	283,350	290,576	37,599	40,849
		自給飼料費	1	410	0	70
		敷料費	905	885	135	141
		労働費	72,464	74,656	9,891	10,577
		診療・医薬品費	23,093	22,630	2,961	3,113
		電力・水道費	18,079	18,900	2,424	2,639
		燃料費	5,399	6,050	749	906
		減価償却費	36,292	34,310	4,921	4,969
		その他	24,416	26,445	3,282	3,683
		当期生産費用合計	481,456	493,171	64,339	69,705
		期中種豚振替額	15,714	14,540	2,222	2,253
期末飼養豚評価額	144,191	143,502	19,168	19,714		
売上原価	466,509	480,989	62,208	67,786		
売上総利益	64,030	99,446	7,892	13,429		
販売費・一般管理費		78,957	80,261	10,534	11,243	
営業利益		-14,927	19,185	-2,642	2,186	
営業外収益		47,636	42,754	6,240	6,132	
営業外費用		17,687	18,513	2,441	2,762	
経常利益		15,022	43,426	1,157	5,555	
経常所得		81,483	109,131	10,234	14,860	
当期償還額控除所得		51,558	78,265	6,079	10,493	
同上償却費加算額		87,850	112,575	11,000	15,457	
家族労働力1人当り年間経常所得(千円)		3,587	5,119	3,587	5,119	

- (1) 平成13年の12年に対する売上高合計は、種雌豚1頭当たりでは9.4%の増加、肥育豚1頭当たりでは15.9%の増加であった。
- (2) 平成12年、13年の売上高合計に占める種雌豚1頭当たりの肥育豚販売収入は98%以上であるが、肥育豚販売収入は9.0%の増加で、子豚販売・候補豚販売収入も多くなった。
- (3) 平成13年の12年に対する売上高原価は、種雌豚1頭当たりでは3.1%の増加、肥育豚1頭当たりでは9.0%の増加であった。
- (4) 生産費用の購入飼料費は、売上原価の61%(平成12年)、60%(平成13年度)を占めるが、平成13年は12年に対し、種雌豚1頭当たりでは2.6%増加し、肥育豚1頭当たりでも8.6%増加した。
- (5) 種付料は平成13年は12年に対して、種雌豚1頭当たりでは62%増加し、肥育豚1頭当たりでは83%増加した。これは豚人工授精(AI)の利用が多くなり、豚精液の購入利用が多くなったことが考えられる。
- (6) 平成13年度の12年度に対する損益は、種雌豚1頭当たりの売上総利益で55.3%の増加、肥育豚1頭当たりで70.2%の増加であった。これは枝肉市場価格(中央卸売市場、1kg平均卸売価格)が平成12年度の388円から、平成13年度の441円に増加(14%)し、肥育豚販売収入が増加した。当期生産費用のうち、その占める割合の最も多い購入飼料費、次いで多い労働費で増加しており、直接費用は増加となったが、全体としては枝肉市場価格の影響で平成13年は12年に比べて利益および所得が増加した。
- (7) 平成13年度は12年度に比べて当期生産費用の種付料が高くなっているが、これは豚AI技術の普及による購入精液の費用増加が考えられる。平成4年度から12年度までは種雄豚1頭当たりの種雌豚飼養頭数は平均12頭であったが、13年度は13.2頭と増加(1.2頭)しており、今後AIの普及により種雌豚飼養頭数に対して種雄豚飼養頭数が少なくなっていくことが予想される。

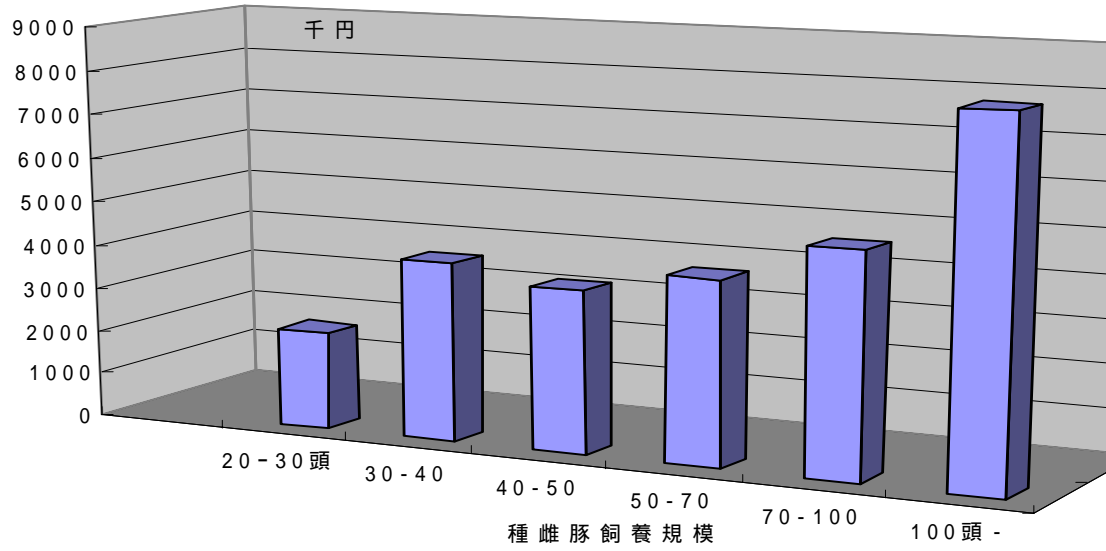
3) 種雌豚飼養規模別の収益性

種雌豚1頭当たりの売上高、売上原価、経常所得(平成13年度)



- (1) 売上高は70~100頭規模が最も高くなった(619,113円)
- (2) 売上原価および経常所得は階層間で大きなちがいは認められなかった。

家族労働力1人当たり年間経常所得(平成13年)

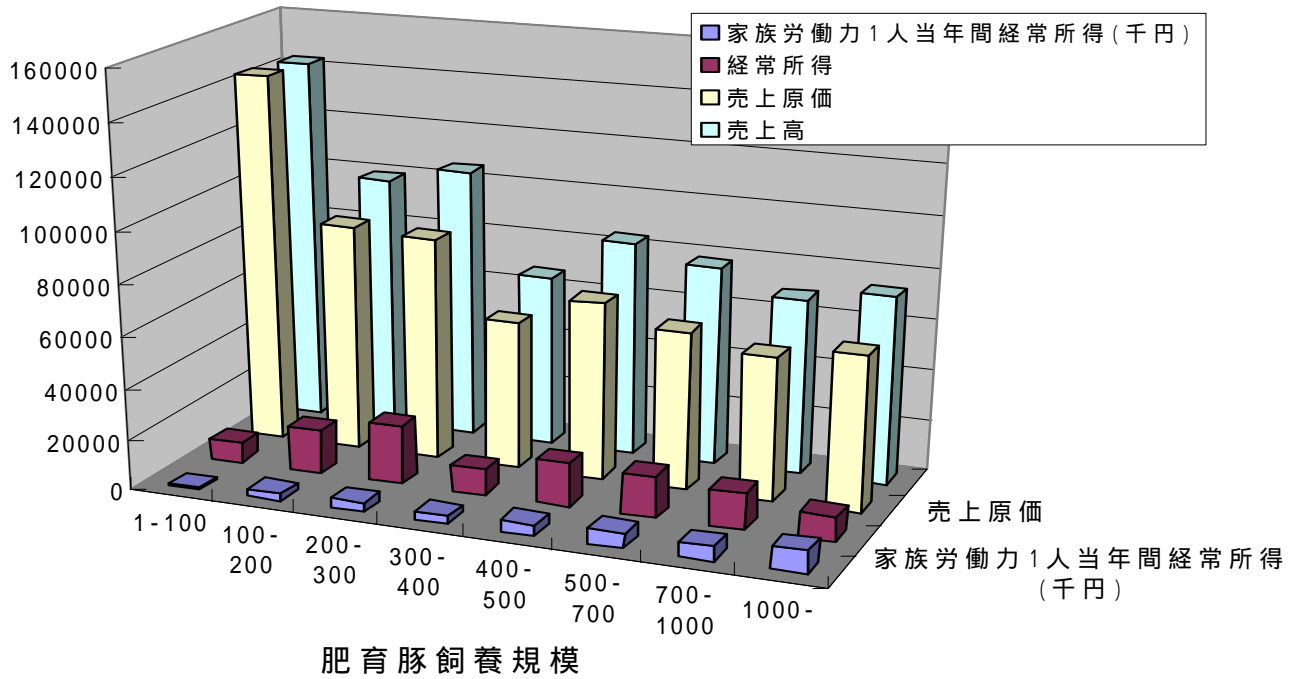


(1) 種雌豚飼養規模 100 頭以上階層 (8,080,000 円) は、20~30 頭階層と 5,854,000 円、70 ~ 100 頭階層と 3,058,000 円の格差があった。

4) 肥育豚飼養規模別の収益性

肥育豚1頭当り売上高、売上原価、経常所得

円



- (1) 売上高、売上原価とも肥育豚飼養規模の拡大にともない低下する傾向にあった。
- (2) 経常所得には大きなちがいはみられなかった。
- (3) 家族労働力1人当年間経常所得は飼養規模の拡大にともない増加する傾向にあった。
肥育豚飼養規模1000頭以上と1~100頭には8,282,000円の格差があった。

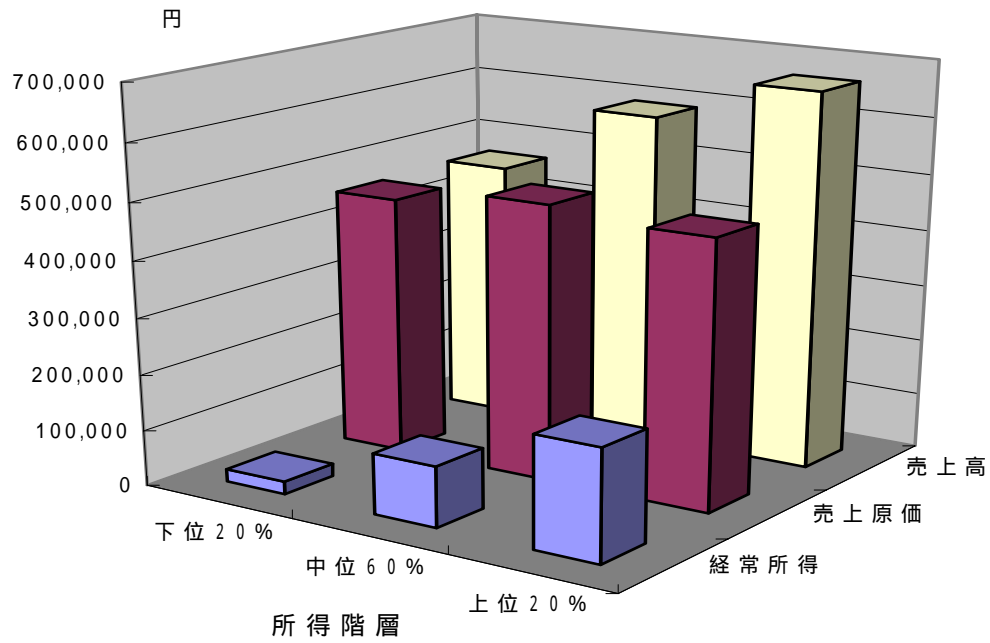
5) 所得階層別の収益性

種雌豚年間1頭当り所得階層別の収益性(平成13年度)
(単位:頭、円)

		下位20%	中位60%	上位20%	
集計戸数		22	68	22	
種雌豚飼養規模		207.2	95.4	62.9	
売上高	子豚販売収入	147	3,235	840	
	肥育豚販売収入	460,963	580,673	643,905	
	候補豚販売収入	0	537	9,578	
	その他	2,971	5,940	11,712	
計		464,081	590,386	666,035	
売上原価	期首飼養豚評価額	136,130	148,241	148,235	
	当期生産費用	種付料	460	514	2032
		もと畜費	19,649	17,417	15,646
		購入飼料費	272,183	295,678	293,196
		自給飼料費	0	675	0
		敷料費	930	905	779
		労働費	74,323	74,250	76,245
		診療・医薬品費	16,297	25,721	19,409
		電力・水道費	17,813	19,968	16,686
		燃料費	6,887	5,649	6,454
		減価償却費	35,457	32,675	38,216
		その他	21,989	27,480	27,702
		当期生産費用合計	465,987	500,933	496,362
期中種豚振替額	12,970	14,506	16,215		
期末飼養豚評価額	129,310	144,837	153,569		
売上原価		459,838	489,831	474,813	
売上総利益		4,243	100,555	191,223	
販売費・一般管理費		61,584	83,093	90,185	
営業利益		-57,341	17,462	101,038	
営業外収益		42,916	44,323	37,741	
営業外費用		24,207	17,723	15,260	
経常利益		-38,633	44,062	123,518	
経常所得		22,582	108,412	197,903	
当期償還額控除所得		-14,686	75,294	180,402	
同上償却費加算額		20,771	107,968	218,618	
家族労働力1人当り年間経常所得(千円)		2,618	5,238	7,254	

- (1) 売上高の肥育豚販売収入は上位20%階層(643,905円)と下位20%階層(460,963円)との格差が182,942円と大きくなっている。肥育豚販売収入は種雌豚1頭当たりの肥育豚販売価格と肥育豚販売頭数が影響する。このあとの繁殖成績・肥育成績でも示しているが、上位20%階層は下位20%階層に対して販売頭数が多く、肥育豚1頭当たりの販売価格も高い、多出荷・高販売価格グループとなった。
- (2) 売上原価は各階層で大きな格差はみられない。当期生産費用の種付料は上位20%階層が下位20%階層の4.4倍と多くなっており、このことは繁殖成績に重点をおいた経営が高収益につながることを示している。
- (3) 上位20%階層と下位20%階層の、経常所得格差(175,321円)は肥育豚販売収入格差とほぼ同じであった。

種雌豚1頭当たりの所得階層別の売上高、売上原価、経常所得(平成13年度)



(1) 階層間の売上原価に差がないため、売上高格差がそのまま階層の経常利益格差になった。

6) 生産性（繁殖技術）の種雌豚飼養規模別比較

種雌豚飼養規模別にみた繁殖成績(種雌豚1頭当たり・平成13年度)

	20-30頭	30-40頭	40-50頭	50-70頭	70-100頭	100頭-
分娩回数	2.0	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2
1腹当たり分娩頭数	10.4	10.1	10.5	10.4	10.7	10.9
哺乳開始頭数	18.3	21.9	21.6	22.0	21.6	22.7
離乳頭数	16.9	19.3	19.2	19.0	20.0	20.1
離乳育成率(%)	90.6	88.1	89.6	89.7	93.0	90.7
肥育豚販売頭数	16.0	17.1	16.4	17.5	18.5	17.9

- (1) 分娩回数は30～40頭規模以上では2.2回で安定していた。
 (2) 分娩頭数、哺乳開始頭数、離乳頭数、育成率で、種雌豚飼養規模が大きくなるほど成績が良くなる傾向がみられた。当然ながら、このことは肥育豚販売頭数および売上高に影響する。

7) 生産性（繁殖技術）の所得階層別比較

所得階層別にみた繁殖成績と肥育豚販売(種雌豚1頭当たり)

(単位:頭、円)

平成13年度	下位20%	中位60%	上位20%
分娩回数	2.0	2.2	2.2
1腹当たり分娩頭数	10.6	10.5	10.9
哺乳開始頭数	20.1	21.7	23.8
離乳頭数	18.0	19.6	21.0
肥育豚販売頭数	15.3	17.7	19.4
肥育豚販売収入	460,963	580,673	643,905
肥育豚1頭当たり販売収入	30,128	32,806	33,191

- (1) 所得階層が上位になるほど好成績であった。
 (2) 5)の収益性でもみたように、上位20%階層は子豚生産頭数、肥育豚販売頭数、肥育豚1頭当たりの販売価格で、下位20%階層より多生産、多出荷、高販売価格グループであり、そのことが肥育豚販売収入格差(182,942円)に大きく影響していた。

8) 肥育成績（肥育豚飼養規模別）

肥育豚頭数規模別の肥育成績

平成13年度	全体	1-100頭	100-200頭	200-300頭	300-400頭	400-500頭	500-700頭	700-1000頭	1000頭-
平均肥育豚出荷頭数	2002	346	451	830	716	1114	1427	1754	6573
肥育豚生体1kg当り販売価格	290	293	278	286	294	301	296	288	288
枝肉単価(円)	437	440	417	443	431	453	439	431	438
出荷時生体重(kg)	112	106	110	112	110	112	112	112	112
「上」適合率(%)	46.9	47.5	41.4	44.7	46.1	41.7	47.3	54.9	45.7
枝肉格落率(%)	2.1	1.0	2.0	1.5	4.1	1.6	2.3	2.2	0.9
飼料要求率	3.18	3.63	3.54	3.23	3.24	3.21	3.07	3.07	3.14
1日平均増体重(g)	600	696	653	655	601	597	611	573	545
対常時頭数事故率(%)	17.2	40.0	17.0	9.6	20.9	15.0	13.2	20.9	19.6
肥育回転率(%)	2.46	4.67	2.96	3.21	2.03	2.47	2.31	2.12	2.27
平均肥育日数(日)	162	119	135	141	164	158	169	177	171
仕向時平均もと豚体重(kg)	14	20	23	18	11	10	12	12	18
労働力1人当り肥育飼養頭数	293.9	80.3	156.7	187.4	279.7	257.5	308.5	367.5	407
肥育豚1頭当り年間労働時間	9.4	28.1	14.9	13.7	9.2	9.8	7.9	6.4	5.9
家労1人当り年間經常所得(千円)	5119	604	2792	3674	2951	4311	5841	5724	8886

(1) 飼料要求率は飼養頭数が拡大すると低くなる傾向がみられたが、他の項目については大きな差はみられなかった。

9) 肥育成績（所得階層別）

所得階層別の肥育成績と収益性

平成13年度	全体	下位20%	中位60%	上位20%
種雌豚1頭当り販売頭数	17.6	15.3	17.7	19.4
肥育豚1頭当り販売価格	32,331	30,471	32,743	32,918
「上」以上適合率(%)	46.9	44.1	47.5	47.5
枝肉格落率(%)	2.1	3.6	2.2	0.6
飼料要求率	3.18	3.22	3.16	3.21
1日平均増体重(g)	600	594	585	653
対常時頭数事故率(%)	17.2	27.5	16.9	7.9
肥育回転率(%)	2.46	2.34	2.21	3.32
平均肥育日数(日)	162	171	166	141
労働力1人当り肥育飼養頭数	293.9	285.7	321.9	215.7
肥育豚1頭当り売上高(円)	81,215	71,334	73,779	114,081
肥育豚1頭当り売上原価(円)	67,786	69,581	61,093	86,677
肥育豚1頭当り經常利益(円)	5,555	-6,473	5,735	17,028
肥育豚1頭当り經常所得(円)	14,860	2,781	13,779	30,281

(1) 上位20%階層は下位20%階層に対して、枝肉格落率、事故率で成績が優れていた。
(2) 肥育豚損耗率の低さ（多出荷販売）と肥育豚1頭当りの高販売価格が高収益に反映されていた。

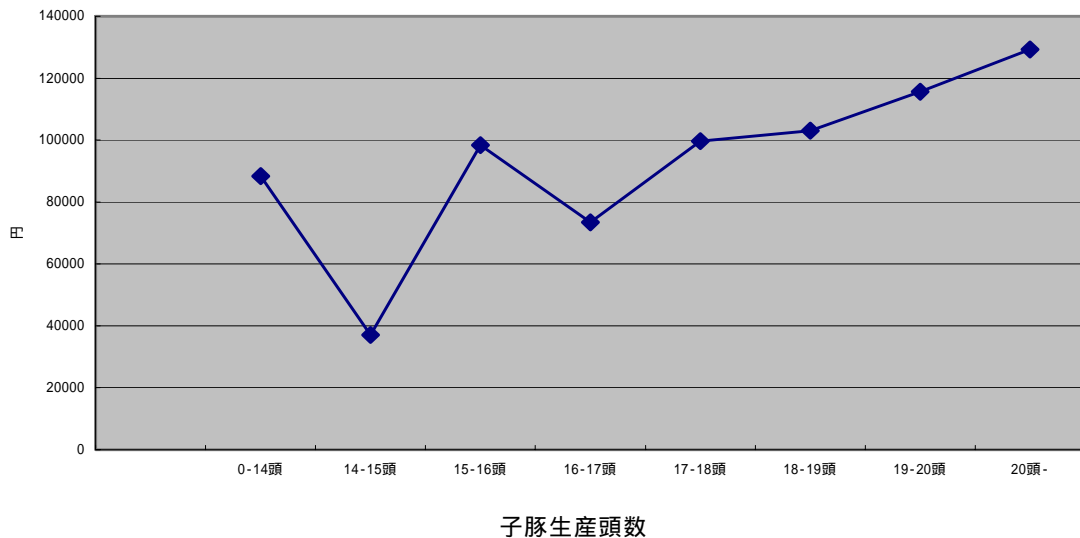
10) 子豚生産頭数の収益性比較

子豚生産頭数規模別(種雌豚1頭当たり)の経営概要

子豚生産頭数規模		全体	0-14頭	14-15頭	15-16頭	16-17頭	17-18頭	18-19頭	19-20頭	20頭-
平成13年度 集計戸数 %		112 100	5 4.5	5 4.5	7 6.3	6 5.3	14 12.5	17 15.2	13 11.6	45 40.1
労働力	労働力員数(人)		1.3	1.2	1.8	1.9	2.8	2.1	1.8	3.9
	うち家族員数(人)		1.3	1.2	1.8	1.9	2.0	1.7	1.6	2.0
飼養頭数	種豚		44.2	40.9	47.7	75.5	124.0	71.2	65.0	165.0
	雌(頭)		3.8	3.8	4.6	7.5	9.7	6.5	5.9	11.1
	雄(頭)		3.8	3.2	5.6	4.2	13.1	6.8	4.8	22.6
	候補豚(頭)		136.0	143.0	113.7	145.3	321.5	182.6	115.7	381.4
出荷頭数	子豚(頭)		241.4	195.4	298.3	537.8	799.1	533.5	490.7	1380.4
	肥育豚(頭)									
出荷頭数	子豚(頭)		647	568	706	1072	2003	1210	1126	3189
	肥育豚(頭)									
	候補豚(頭)								1	1

- (1) 子豚生産頭数が20頭以上(種雌豚平均飼養頭数165頭)で全体の40%を占め、種雌豚飼養頭数規模(100頭以上)が多いものが好成績となった。
- (2) しかし、子豚生産頭数が17~18頭(種雌豚平均飼養頭数124頭)は種雌豚の飼養頭数が多い階層(100頭以上)ではあるが、繁殖成績でやや劣ったものと考えられる。このことは種雌豚飼養規模の多い経営(100頭以上)のなかに、繁殖成績の良好なもの(子豚生産20頭以上グループ)と、やや低いもの(子豚生産17~18頭グループ)が含まれており、技術水準に差があると考えられた。

子豚生産頭数規模別(種雌豚1頭当たり)の經常所得



- (1) 子豚生産頭数が多いほど經常所得は多くなった。
- (2) 図から推定試算すると子豚生産頭数1頭の格差は、經常所得の格差約10,000円に相当した。

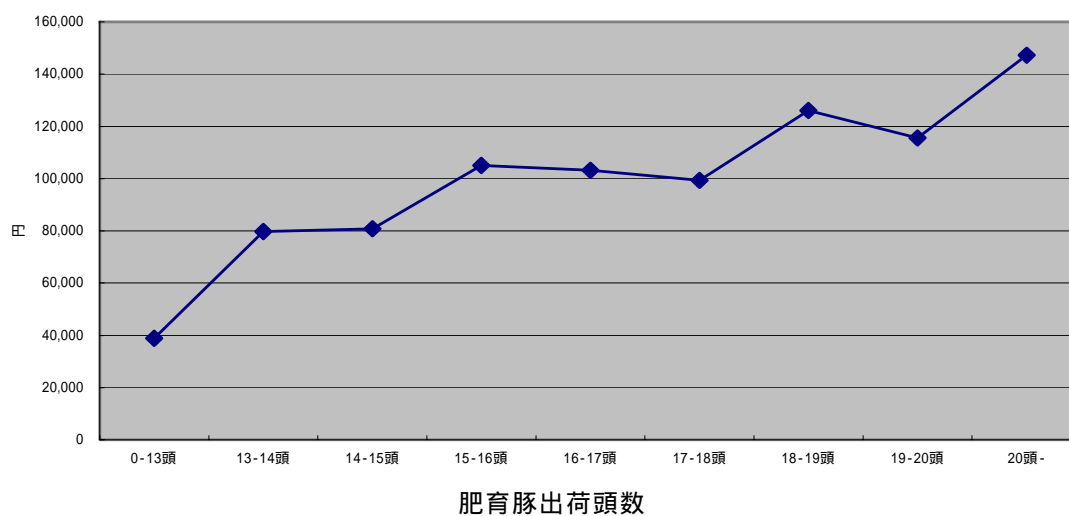
1 1) 肥育豚出荷頭数の収益性比較

肥育豚出荷頭数規模別(種雌豚1頭当たり)の経営概要

肥育豚出荷頭数規模		全体	0-13頭	13-14頭	14-15頭	15-16頭	16-17頭	17-18頭	18-19頭	19-20頭	20頭-
平成13年度 集計戸数		112	9	10	4	12	10	18	15	7	27
%		100	8.0	8.9	3.6	10.7	8.9	16.1	13.4	6.3	24.1
労働力	労働力員数(人)		1.9	1.8	1.0	2.0	7.1	2.3	2.5	3.8	2.5
	うち家族員数(人)		1.7	1.8	1.0	1.9	2.3	1.9	1.9	1.9	1.8
飼養頭数	種豚		54.4	63.7	42.3	79.2	302.2	69.6	97.2	221.0	107.5
	雌(頭)		4.8	5.6	3.5	6.9	19.7	6.6	7.7	13.3	8.1
	候補豚(頭)		4.7	5.5	3.8	5.0	33.4	6.8	9.7	67.4	8.6
飼養頭数	子豚(頭)		117.9	158.0	155.0	126.7	692.5	154.0	222.2	506.7	295.8
	肥育豚(頭)		297.1	426.9	236.3	597.9	2269.3	533.9	803.9	1587.9	952.3
出荷頭数	子豚(頭)		116				39.9		0.1		10.0
	肥育豚(頭)		614	862	612	1234	4994	1223	1714	4405	2325
	候補豚(頭)		19						3		

- (1) 肥育豚出荷頭数が 20 頭以上(種雌豚平均飼養頭数 107.5 頭)は全体の 24%を占めた。
- (2) 肥育期間の事故率などで子豚生産頭数の数値より低くなるが、全体としては子豚生産頭数規模別の傾向と同様になった。

肥育豚出荷頭数規模別(種雌豚1頭当たり)の經常所得



- (1) 肥育豚出荷頭数が多いほど經常所得は多くなった。
- (2) 図から推定試算すると肥育豚出荷頭数 1 頭の格差は、子豚生産頭数と同様に經常所得の格差約 10,000 円に相当した。